冬季オリンピック招致と

志賀高原岩菅山の自然保



わたなべ りゅういち (信州大学教育学部志賀 自然教育研究施設) 1947年東京に生る。東京都立大学院生物学科を 卒業。1977年より長野県 志賀高原にある信州大学 の自然教育研究施設に勤

地域の自然を理解する ことで新しい自然と社会 のあり方を考える活動を めざしている。

を名目とした岩菅山開発という、社会的には強者の 突然に中止となった、いかにも振り回されてばかり 何が問題だったのか私なりの視点から考えてみたい。 その経過を振り返り、この運動の中で何が行われ、 自然破壊の意向を翻させた運動なのであったと思う。 保護にかける力が結集して、冬季オリンピック招致 の二年半であった。簡単に言えば、実に多くの自然 とっては、岩菅山問題は突然に降り掛かり、そして で、それが突然に中止となった日なのである。私に 後者は多くの人たちの長く苦しい開発反対運動の中 スキー場が建設されることが発表された日であり、 岩菅山に長野冬季オリンピック招致のため、巨大な は一生忘れられない日となった。前者は志賀高原の 一九八七年十二月十九日と一九九〇年四月五日と

> 簡単な経緯 冬季オリンピック招致と志賀高原岩菅山開発問題の

いる。 公表。志賀高原の岩菅山に巨大なコースが描かれて でノルデックと決定。この時の不明瞭な選定が最も 大きな疑惑として後々まで問題になり続ける。 招致準備委員会設立。長野県自然保護連盟も参加、 九八七年十二月十九日 五輪開催計画書を決定、 九八六年六月九日 「自然保護に十分配慮するよう」要望 九八五年十二月十八日 長野に冬季オリンピック 山ノ内町でアルペン、白馬村

ととした。三月二十九日県に対し、自然保護への留 ついて、科学的立場から調査団をつくり対処するこ 初の一五輪と自然保護」学習会。岩菅山開発問題に 一九八八年二月二十七日,長野県自然保護連盟が最

意を要請。四月二十三-二十四日に第一回岩菅山現 地調査を行う。

山視察。四月十六日にも日本オリンピック委員会 三月二十六日 全日本スキー連盟 (SAJ) が岩膏 (JOC) が視察。

門委員会が設置された。 五月十六日 長野冬季オリンピック招致自然保護専

六月十七日 志賀高原岩菅山自然環境調査委員会 六月一日 JOC総会で長野市が国内候補に決定 (旭川、盛岡、山形)。

初は反対するための会ではなかった。 七月二十八日 して「考える会」をつくる相談をする。 七月十一日 山ノ内町の有志で岩膏山問題を地元と (以下、岩菅山調査委員会)を長野県が設置。 地元「岩菅山を考える会」発足。最

設は問題、他の地域に移すよう」要請。 八月十八日 長野県自然保護連盟「岩菅山コース開

ス建設反対」声明。以後多くの民間団体が反対声明、 十一月三十日 長野県勤労者山岳連盟「岩菅山コー

八九年一月二十九日 長野県自然保護連盟「冬季五 要請をするようになる。

影や五輪そのものの体質の変化を指摘。 輪と自然保護シンポ」開催。招致に大資本の利害の

保護シンポ」、岩菅山を考える会と長野県自然保護 四月二十二日 賛否多数の意見が討論された。 山ノ内町において「冬季五輪と自然

日本山岳会(十一月十七日)等が相次いで反対要請 提出。その後、 反対」の要請を招致委員会、県知事、長野市長らに 九月二十五日 日本は乳類学会(十月二十四日)、 日本生態学会が「岩菅山コース開設

九月二十六日 よ表舞台に登場してきた。 国組織に改組され、堤氏が名誉会長になり、いよい 十月十二日 長野冬季オリンピック招致委員会が全 スを支持する」最終報告書を提出。渡辺は辞任した。 岩菅山調査委員会が「裏岩菅山コー

対して一万五千余票を獲得し、五輪問題の大きな広 訴えてきた江沢のりこさんが現職市長(約十万)に がりを明らかにした。 十月二十九日 長野市長選挙で「五輪反対」だけを

の意見書がIOC会長らに届いている」と報告、自 然保護問題が国際的になってきた。 十二月十九日 猪谷IOC理事が「岩菅山開発反対

ついての意見書」提出。 オリンピック招致計画に関する岩菅山山域の保護に 十二月二十日 (財)日本自然保護協会が「長野冬季 九九〇年一月十三日 北海道自然保護協会が「岩

> 案を多数とした報告を提出。 する」よう要望書提出。 菅山コースをとりやめ、県下の既存スキー場を利用 月二十二日 招致自然保護専門委員会、 裹岩菅山

決定 一月二十六日 招致委員会、 滑降コース裏岩菅山に

正式立候補届出。 二月十三日 招致委員会、 IOC(ローザンヌ)へ

う」働きかける事を求めた書簡を提出。 あたってIOCは自然環境への配慮を最優先するよ 合(IUCN)のスワミナサン会長に「五輪開催に 三月一日 (財)日本自然保護協会は国際自然保護連

案」への反論、その後WWFJ他も相次いで反対意 正案を自らのホテルで記者に発表。 長は多少のコース変更で自然保護への配慮をした修 三月二十七日 (財)日本自然保護協会による「修正 三月二十二日 SAJによる岩菅山現地視察、

> ないかと るのでは ことにな は大変な た。これ う噂がたっ くると言

四月五日 堤JOC会長による岩菅山開発断念の突

然の発表

四月十二日 堤JOC会長辞任

難しい場面もあった。 態学会の要請文の作成、送付には地元の会員として、 私は地元では山ノ内町の青年達を主にした「岩菅山 立場が異なるわけで、個人としてはその使い分けが 参加協力をしてきた。それぞれの会や組織は性格や 自然環境調査委員会には研究者として、また日本牛 には自然保護を訴え運動する立場から、県の岩菅山 を考える会」に一住民として、長野県自然保護連盟 以上が岩菅山問題の大まかな流れです。この中で

主催都市として山ノ内町と白馬村に競技を分担する 八五年に冬季五輪が話題になり、やがて長野市を

> ン競技が その中で にアルペ 志賀高原 かにされ、 画が明ら という計

心配して

山すそは紅葉、山頂部は雪をかぶって白く輝 ニ(奥志賀より1989.10.18)

ろ、八七年十二月十九日に長野冬季オリンピック招 いたとこ

に巨大なスキー場が作られることになっているでは された最後の山、そしてこの地域の最高峰の岩菅山 原の奥地、スキー場だらけの中にあって開発から残 致委員会の計画書が発表された。 なんとこの志賀高

側面から参加してきた経験から、実際に自分でそう であった。しかし、これまで各地の自然保護運動に 原は巨大な観光地の割には奥行きのある豊かな自然 ちに自然の大切さ、楽しさを実際の自然の中で話し、 研究施設という全国でも唯一のユニークな研究所に 持ち上がったのであり、当然に見過ごせない大問題 が残されている。その地元で突然、巨大な開発話が ともに自然について考える活動をしてきた。志賀高 一九七七年以来勤務し、学生や観光客、地元の人た 私は志賀高原にある信州大学教育学部の自然教育

う考えどうなってゆくのか考えに考え、翌日ワープ まに考えさせられた。その日はとにかく岩菅山の何 ていろいろな混乱を引き起こすことか、などさまざ が問題か、反対運動の中で、私や地域の人たちがど した運動を始めることがいかに困難なことか、そし に向かって一気に書き上げたのが [岩菅山のオリ

1977 1987 場開発の歴史

こうした長野冬季オリンピック招致にいろ

おり、 調査団]が設立されることになった。三月に は一九九八年の冬季オリンピックには旭川、 JOCの現地調査等があり、岩菅山の自然保 は全日本スキー連盟(SAJ)の、四月には の五輪学習会が持たれ、[岩菅山と五輪問題 盛岡、山形、長野の国内四都市が立候補して 致の大きな問題点となってきた。この時点で 護は長野にとって急速に冬季オリンピック招 いろな面で疑問をもつ人たちとも連絡がつき、 九八八年二月には長野県自然保護連盟主催 なかでも盛岡はすでに新幹線や高速道

1967

焼麵山

書である。少し長いが私の考えを知っていただく上 で資料として引用したい(巻末)。 ンピックスキーコース開設の問題点] と題する意見

となどで最有力といわれた。

が整備されており、十分なスキー競技施設があるこ

発のあり方は、そこで生活する住民が主体的に選択 の財産として手をつけるべきではない。二、地域開 この主な内容は、一、岩菅山地域は、 原のゆきすぎた開発を考え直す機会としたい 発の事を知らされていなかった、と言う非民 すべき。の二点であった。前者はこれまで見 もあったのだと言うことがわかってきた。 友人、知人にばらまいた。地元の新聞社にも なければ開発できない面倒な事情のある山で オリンピックという国際的な行事を持ち出さ やがてこの岩菅山開発は地元にとっても冬季 投書してみたが案の定採用はされなかった。 希望からであった。 書いては見たもののどこ 主的な決定への抗議とこれを機会に、 者は、地元の地権者でさえ正式には岩菅山開 てきた志賀高原の自然のありようからで、後 へ送るか、結局年賀状がわりに地元や全国の 貴重な自然 志賀高

> くれ、私たちの考えの正しいことを教えてくれた。 発すべきでない」とする意見を一貫してつらぬいて **う形にしたかったのだと思う。しかし、行政の期待** を納め、全体の報告としては岩菅山で納得してもら 沼田真会長を委員に引き込むことで自然保護の世論 声に対処するためようやく自然保護専門委員会を設 とも的確強固であり、「岩菅山は自然地域として開 に反して、研究者でもある氏の客観的な判断はもっ け問題点の検討を始めた。 (財)日本自然保護協会の その中で長野の招致委員会はこうした自然保護の

要なことに違いない。そこで植生担当として参加し 査されることは保護するにしろ開発されるにしろ必 動はやりにくいものになるだろうと思われ、当初は アセスに使われるだろうし、また委員の間は反対運 ては、この調査がいかに客観的に行われても結局は 策だった。すでに反対運動に走り出していた私にとっ り名目であって自然保護に対する五輪推進の為の対 然環境調査委員会」を設けた。しかし、これもやは いうことで自然科学者を組織し「志賀高原岩菅山自 護の委員会と調査団が作られたのである。 た。こうして、招致側と連盟側、県の三者に自然保 参加を断った。しかし、実際に岩菅山が客観的に調 同時に長野県は行政として客観的な調査を行うと

が純粋なスポーツ運動ではないということが誰の目 補を長野に決定した。この経過には明らかにSAI にもはっきりしてしまった。 る堤義明氏の意向と作戦とが表れており、長野招致 会長であり、同時に西武という巨大資本の総帥であ 六月に長野で「全国ブナシンポ」が行われ、その 六月一日にJOCは一九九八冬季オリンピック候

開発拠点を持つ国土計画KKのホテル群とを見て、 りと対照的に残された岩菅山、その対岸の焼額山に がては岩菅山開発反対を町の中での圧力に屈せずに でお互いの情報や考えを基に問題点を話し合い、や いけないと考える人がでてきて、七月の末にやっと る岩菅山の開発を自分達の問題として考えなければ 内町でもこうした県や全国レベルで問題になってい 大きな運動を展開してくれた。岩菅山の地元、山ノ に取り上げ、全国的に、またIUCN等国際的にも 護」誌上で岩菅上と冬季オリンピック問題を集中的 した。以後(財)日本自然保護協会は機関誌「自然保 岩菅山の開発は自然保護上問題が多いと意見は一致 山を実際にみてもらった。志賀高原の余りの開発が オリンピックの名目で開発されようとしている岩菅 おりに(財)日本自然保護協会の工藤父母道氏に冬季 [岩菅山を考える会] ができた。以後毎月集まる中

明確に宣言するまでになった。 続ける長野冬季オリンピック招致は、それ自身がま らかにされてゆく中で、岩菅山開発へのこだわりを た。企業が裏にいる招致運動という側面が次第に明 輪と自然保護シンポ]を開催する中で主張していっ べきである]と言う基本的な考えが生まれ、八九年 を長野へ招致したいのなら、既設のスキー場でやる は止めるべきである、どうしても冬季オリンピック つつ、問題点の検討をする中で[岩菅山の新規開発 そして、この問題に関心ある人たちとも連絡を取り ためであり、欺まんだとする声の起きる背景である。 の謎であり、これこそが、今回の招致運動が企業の 王国と言われた白馬村がノルデックなのか〕は最大 [なぜ、山ノ内町がアルペン競技で、あのアルペン 月に長野市で、四月には地元山ノ内町で[冬季五 今回の長野冬季オリンピック招致の過程の中では、

単なる言葉以上に総合化された科学であり、こうし 然の要素とその社会的な評価の両面を含んでおり、 試みを行った。以上の個別的項目に対して景観は自 つつも岩菅山の自然を志賀高原や山ノ内町全体の中 かに今のところ客観的に説明できるなんの論理もな そこに生息する生物達の価値や意味については、確 植生はもっぱら現況調査に徹したが、その評価につ 視点が強く、技術的な検討がなされていた。動物、 うことがよくわかった。

地形・地質班は防災という 然保護にたいする見方がずいぶんと違うものだとい の調査報告や意見を聞いていると、分野によって自 た開発問題に対してはもっとも大きな比重があるべ で、できるだけ客観的に評価する必要があると考え、 いということがよくわかった。それで力不足は知り いては全く個人的見解にたっていた。地域の自然や 「植生評価」という調査項目を担当し、いくつかの 県の岩菅山調査委員会の中で多様な研究分野から

法が確立していないようであった。こうして岩菅山法が確立していないようであった。こうして岩菅山法が、各分野の報告に基ずく相互討論の機会は必ずしむ十分ではなかった。この二年間にわたる県の岩菅山調査委員会の最終報告は、一九八九年九月に提出されることになり、数度のまとめの委員会が開かれ、そこで初めて研究者による自然保護問題が集中的にそこで初めて研究者による自然保護問題が集中的にそこで初めて研究者による自然保護問題が集中的にそこで初めて研究者による自然保護問題が集中的にそこで初めて研究者による自然保護問題が集中的にそこで初めて研究者による自然保護問題が集中的にそこで初めて研究者による自然保護問題が集中的に表する。こうして岩菅山はが確立していないようであった。こうして岩菅山法が確立していないようであった。こうして岩菅山法が確立していないようであった。こうして岩菅山法が確立していないようであった。こうして岩菅山法が確立していないようであった。こうして岩菅山法が確立していないようであった。こうして岩菅山が、

題である」という部分は、明らかに自然科学的調査 リンピック競技の開催のためには、競技コースとし はないはずである。しかし、今回の結論の中の「オ ピック、アルペン競技の滑降コース等に予定されて 同分野の研究者といった狭い範囲であり、それがこ 般に大学の研究者が通常つきありのは学生や同僚、 り、岩菅山の科学的調査の結果とその問題点の指摘 ても評価が異なるのはしかたがない。しかし、冬季 する見方が異なるのはやむを得ないし、個人によっ の範囲を越えている。研究の分野によって開発に対 ての条件を備えた施設が必要であることも現実の課 に検討する」とあり、五輪の是非を議論するもので を把握するとともに、自然保護への配慮等を総合的 だけで、十分であったはずだと今も考えている。 オリンピック自体の評価をする必要はないはずであ いる志賀高原岩菅山の施設整備予定地域の自然状態 この岩菅山調査委員会の目的は「長野冬季オリン

きと考えられる。しかし、植生と同様客観的な評価

これでは、そのでは、これでは、これでは、これでは、これではないだろうか。結局は招致側としては、研究者断を貫くことができない大きな理由になっているのりした行政からの委託調査に対して、真に科学的判

総会までの長い戦いを覚悟した。開催地が決定される一九九一年六月英国でのIOCIOCに立候補を行った。私たちは、一九九八年の会は、全ての[岩菅山開発反対の声]を振り切って会は、全ての[岩菅山開発反対の声]を振り切って

の長上と美の民族にあった。 しかし、運動の成果は徐々に表われ、 [五輪を名目にした岩菅山開発] という主張は広く世界的にも と言ってみても、もはやそれは自然保護への配慮と と言ってみでも、もはやそれは自然保護への配慮と と言ってみても、もはやそれは自然保護への配慮と と言ってみでも、もはやそれは自然保護への配慮と にもり、という主張は広く世界的にも になるになるでは、ためでは、たと のまたと

の裏に企業の思惑があった]事を明確に知った。 現在の世界の環境悪化そして自然破壊を考えるとき、自然保護は何にもまして考えられ、尊重されなければならないことを多くの人々は切実に感じていければならないことを多くの人々は切実に感じていければならないことを多くの人々は切実に感じていければならないことを多くの人々は切実に感じていければならないことを多くの人々は切実に感じていければならないことを多くの人々は切実に感じていければならない。世界的なお祭りをの最後の未開発地、岩菅山は今かろうじて開発からの最後の未開発地、岩菅山は今かろうじて開発からの最後の未開発地、岩菅山は今かろうじて開発からというにより、 の表後の未開発地、岩菅山は今かろうじて開発からの最後の未開発地、岩菅山は今かろうじて用発からい。 の表後の未開発地、岩菅山は今かろうじて加えが、 の表後の未開発地、岩菅山は今かろうじて加えが、 の表後の未開発地、岩菅山は今かろうじて知発があった。

だいた全国の多くの方々に深く感謝いたします。ともあれ、岩菅山の開発阻止のため協力していた主体的に考えるときがやっと来たのだと思り。



図 2 山ノ内町とMAB バッファー)、魚野

資料

一九八七・一二・二〇岩音山のオリンピックスキーコース開設の問題点

渡辺隆

問題点があると感じており、以下に論じたい。間題点があると感じており、以下に論じたい。なりのと考えられる。今回の計画については多くのでは開発されずに残ってきた岩菅山の貴重な自然環では開発されずに残ってきた岩菅山の貴重な自然環では開発されずに残ってきた岩菅山の貴重な自然環では開発されずに残ってきた岩菅山の貴重な自然環の場ではいる。今回の計画については多くのあるものと考えられる。今回の計画については多くのあるものと考えられる。今回の計画については多くのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいの計画には、といいのとは、といいのは、ままは、といいのは、といいのは、といいのは、は、といいのは、といいいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいいのは、といいいのは、といいのは、といいいいのは、といいいのは、といいのは、といいのは、といい

けるべきではない。 一 岩菅山地域は、貴重な自然の財産として手をつ

本ものなのである。 本ものなのである。 本ものなのである。 本ものなのである。 神童な原生的自然は一度失われると、人工的には二分後貴重なものとして見直され、良好な環境資源として、ますます重要なものとなるだろう。そうした傾向は、近年の自然観察や森林るだろう。そうした傾向は、近年の自然観察や森林るだろう。そうした慢かな原生的自然のもつ価値はつつある。そうした豊かな原生的自然のもつ価値はつつある。 神質な原生的自然は極めて少なくなり、貴重な存在になりの自然地域は極めて少なくなり、貴重な存在になりの自然地域は極めて少なくなり、貴重な存在になりの自然地域は極めて少なく、世界においても手つかずのみならず、全人類的な財産と言えるほどの重要なある。

計画で著しくそこなわれてしまうであろう。計画で著しくそこなわれてしまうであろう。との開発の対象地、岩菅山の南東斜面は魚野川の流域であり、そこは林道は元より登山道もほとんの流域であり、そこは林道は元より登山道もほとんの流域であり、そこは林道は元より登山道もほとんの流域であり、そこは林道は元より登山道もほとんの流域であり、そこは林道は元より登山道もほとんの流域であり、そこは林道は元より登山道もほとんの流域であり、そこなわれてしまうであろう。

農林業や観光といった人間活動との調和を計る伝統極的に自然の回復を促進する自然回復エリア、b. いるのである。日本では、屋久島、白山、大台が原、いるのである。日本では、屋久島、白山、大台が原、いるのである。日本では、屋久島、白山、大台が原、いるのである。日本では、屋久島、白山、大台が原、いるのである。日本では、屋久島、白山、大台が原、いるのである。日本では、屋久島、白山、大台が原、いるのである。日本では、屋久島、白山、大台が原、いるのである。日本では、屋久島、白山、大台が原、いるのである。日本では、屋が、地域の保護は世界的にも叫ば、上野のには、日本では、田田ののである。

境を作り出そうとまでしているのである。 境を作り出そうとまでしているのである。 いうだけではなく、積極的に、世界の自然の質を高る。つまり国際的には、残されたものをただ守るとする実験エリア、の三地区を設けることになってい然にどの様な影響を与えるのかを長期間に調査研究的利用エリア、c.そうした人間活動や保護が、自

復させることが、観光を中心とした志賀高原の生活 とは元より、それに接する岩膏山西面も、もはや新 身も原生的自然へと豊かに回復しつつあるのである。 おり、人の踏み込めないこの広大な領域は現在、ク 等の針葉樹を中心に森林への回復は徐々に始まって 採の手が入ったとはいえ、オオシラビソ、コメツガ にとって最良の道であろうと考える。 たな開発に手を付けることなく、豊かな自然へと回 残された魚野川原生流域という貴重な自然を守るこ めの緩衝地域となっているばかりではなく、それ自 に位置して、人間活動からその貴重な自然を守るた この岩膏山西面は、反対側の魚野川原生地域の前面 アに相当していると考えられるのである。一度は伐 マやカモシカの良好な生息地となっている。そして、 岩菅山の北面はまさに、そうした回復のためのエリ 失われてしまった自然は、二度と還らない。この そういう点からみると、開発の対象となっている

体的に選択すべきである。 地域開発のあり方は、そこで生活する住民が主

なり、さらに、観光で生きるここ志質高原にとってよっているのである。地域の水源や農林業の資源とく、東京や広く世界にさえつながっているとはいえ、東京や広く世界にさえつながっているとはいえ、地域での生活はそこだけで完結しているのではな

自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で自然はことさらに重要なものである。この地域内で

今回の岩菅山へのスキーコースの新設は、単に一今回の岩菅山へのスキー場配置やそのあり方にも、極筋技場までの道路も新設されることになっているが、めて大きな影響をもたざるを得ない。又、長野よりめて大きな影響をもたざるを得ない。又、長野よりめて大きな影響をもたざるを得ない。又、長野よりめて大きな影響をもたざるを得ない。又、長野よりめて大きな影響をもたざるを得ない。又、長野よりめて大きな影響をもたざるを得ない。又、長野よりの故に、既存のスキー場配置やそのあり方にも、極いないのかも含めて、地元で再検討する必要があると思われる。

できる機会を設けるべきであると考える。 地元においては、岩菅山は山ノ内町の象徴として 地元においては、岩菅山はないかと私は考えている。こうした地元住民の感情を、オリンピックという錦のみ旗で上から一方的 に押えつけるのは民主的なことではないだろう。地信を、オリンピックという錦のみ旗で上から一方的 に押えつけるのは民主的なことではないだろう。地 地元においては、岩菅山は山ノ内町の象徴として 地元においては、岩菅山は山ノ内町の象徴として

